


<p>原稿案を着想したのが、奇しく</p>	<p>という主旨だった。</p>	<p>生の精神を、江戸文化から学ぶ</p>	<p>OB会サイトに投稿した。「今は失われた共</p>	<p>さ…一期一会」という短いエッセイを、この</p>	<p>地震発生直前の2月末に、私は「江戸しぐ</p>	<p>と不思議な感慨にとらわれている。</p>	<p>こりつつある社会現象に接し、私は深い共感</p>	<p>あおう」という共生の波動が日本中に巻き起</p>	<p>一方、地震発生以来、「復興にむけて支え</p>	<p>地の一日も早い復興を願う。</p>	<p>なった。亡くなられた方々のご冥福と、被災</p>	<p>う人災が相まって人類史上例のない大災禍と</p>	<p>震と津波に加え、福島原発の放射能漏れとい</p>	<p>ケ月。千年に一度とも称される未曾有の大地</p>	<p>東日本一帯で発生した大震災からちょうど3</p>	<p>今年3月11日、東北地方を中心として、</p>	<p>2011年6月11日</p>	<p>「福島の大津波を悼む…あゆち思想」</p>
<p>小河俊紀</p>	<p>2011年6月11日</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>	<p>小河俊紀</p>



源	あ	う	将	年		家	面	お	繁	自	に	っ	字	と	3	単	も
で、	ゆ	。	は、	の		康	白	り	盛	宅	。	て、	通	と	日	純	、
「海	ち		、	系	を	い	だ	し	か	。	、	り	出	「	に	、	
から	と		”	譜	骨	。	が	ぐ	か	。	。	の	か	、	「	、	
吹	は		”	を	太	。	、	さ	け	。	。	秘	。	。	東	、	
い	は		で	を	に	。	童	と	。	。	。	湯	。	。	北	福	
て	、		共	骨	解	。	門	、	。	。	。	だ	。	。	の	島	
く	三		通	太	説	。	冬	越	。	。	。	。	。	。	古	会	
る	人		し	に	し	。	二	川	。	。	。	。	。	。	い	津	
幸	の		て	い	て	。	の	子	。	。	。	。	。	。	秘	の	
福	出		い	る	。	。	つ	に	。	。	。	。	。	。	湯	ひ	
の	身		た	。	。	。	い	つ	。	。	。	。	。	。	で	な	
風	地		と	。	。	。	て	い	。	。	。	。	。	。	の	び	
「	あ		い	。	。	。	は	て	。	。	。	。	。	。	ん	た	
と	愛		。	。	。	。	前	。	。	。	。	。	。	。	び	温	
い	知		。	。	。	。	記	。	。	。	。	。	。	。	り	泉	
う	の		。	。	。	。	の	。	。	。	。	。	。	。	2	宿	
	語		。	。	。	。	と	。	。	。	。	。	。	。	泊	だ	

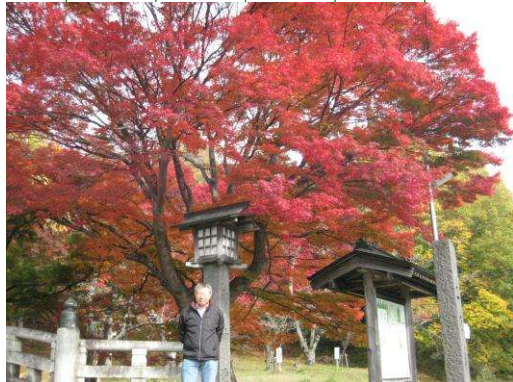
意味だ。したがって、あゆち思想とは「理想的な平和社会の建設」。

確かに、それまで群雄割拠していた戦国時代が、3人で段階的に統一されたので、家康こそ信長と秀吉の正しき継承者とも言える。しかし、徳川二百七十年かけて熟成した平和共生の幕藩体制は、明治維新で完全否定された。とりわけ、旧幕府側についた会津藩はじめ東北諸藩への処罰が過酷をきわめた、と言われている。

今思えば、この会津福島に関し、私はここ数年不思議と縁が深い。

2007年秋、私は大手のギフト卸会社の「新型ギフトカードの開発・実用化プロジェクト」を助言していた。その実験地域として選ばれたのが、会津若松市に本社のあるギフトショップだった。なぜかというところ、この会社は、福島県と宮城県、山形県にわたる広域店舗展開をされていて、地場大手百貨店を

凌ぐギフト売上があるからだ。日本最大のギフトショップだった。
 「ギフトとは、心を贈るもの」という社是があり、顧客対応向上にむけた同社の社員研修が頻繁、かつ真剣に行われていた。その後システムを立ち上げ顧問活動を終えるまでの半年間、数回の同社訪問で「こころと顧客を大切にする姿勢が、この会社が地方で日本一を保つ秘訣だ」と、悟るにいたった。
 それから2年後の2009年11月初旬、関東の紅葉が終わった時期に、名残の紅葉を見たくて、早朝から私はネットを検索した。すると、会津磐梯猪苗代湖に近い「土津（はにつ）」神社の紅葉が真っ盛り」と知った。会津藩初代藩主 保科正之を祀った由緒ある神社のようだ。
 家内を伴い、現地まで常磐道を4時間かけてひた走った。日帰りの強行日程だった。
 実際、その鮮やかな紅葉は、



強行軍の長距離ドライブを裏切らない見事な
 ものだった。
 しかし、もつと驚かされたのは、居合わせ
 た地元の古老の話だった。保科正之公は、地
 元では名君として、今でも神のように崇めら
 れており、NHKの大河ドラマの主演として
 脚光を浴びる日が近いと、この古老が強調す
 る様子がことに印象深かった。
 ちなみに、地元の期待は本格的な陳情運動
 になり、「2011年に、いよいよ実現か？」
 という気配になったものの、実際はなぜか
 「江戸姫たちの戦国」が採用された。
 福島県は、近代の歴史で、数々の辛酸をな
 めている。会津藩は、幕末に幕府から京都守
 護職を任せられ、新選組を組織して倒幕派を
 取り締まった。戊辰戦争では官軍と闘い、白
 虎隊が壮絶な最期を遂げた。生き残った武士
 の多くは下北半島に“島流し”され、幽閉さ
 れたという。

明治以降は、常磐炭鉱が100年にわたつ

て東日本のエネルギーを供給し、近年は原子力発電所が関東の電気を補給してきた。近代日本を支えた福島県が、今回の震災で目に見えない放射能によって、長きにわたって間断なく苦しめられるだろう悲劇に、私は戸惑うばかりだ。

明治から昭和への日本は、欧米列強と覇権を競う戦闘国家へと変貌し、第二次大戦で挫折した。戦後は、武力を放棄し、自由主義経済のもと目覚ましい物質的繁栄を獲得した反面、幼い子供にいたるまで「他者を蹴落とす」「殺伐とした風潮も目立つ」。

この震災で、“目に見えない魔物”放射能が全世界に恐怖を与えているが、反面、福島のギフトショップに象徴されるように、目に見えないものの代表格たるココロの善が悪を破り、日本人の価値観を変え、日本全体が優しい国に変貌していくような気もする。

ちなみに、2月に滞在した磐梯横向温泉には、源義家ゆかりの“八幡太郎の湯”がある。

義家は、千年前に藤原清衡とともに現世の極楽浄土を目指し、平泉文化繁栄の基礎を築いた。東北・福島に、平泉を超える“あゆち”が実現することを、願ってやまない。

※
筆者
注
釈

本文には書いてありませんが、実は、2月の磐梯横向温泉滞在中「歴史を五百年単位で総括すると、日本は数年以内に大災禍」大変革を迎える可能性がありうる」と自分なりの結論に達してしまいました。その気持ちの一部を「江戸しぐさく」という単発エッセイにして2月末に寄稿した経緯でしたが、不幸にも、それが的中してしまったので、再びこのサイトで哀悼の気持ちを込めて続編を書きました。ヤマハは、音楽産業＝平和の象徴でもありませんし。

